



## セルフプロビジョニングの設定

- [セルフプロビジョニングの概要 \(1 ページ\)](#)
- [セルフプロビジョニングの前提条件 \(3 ページ\)](#)
- [セルフプロビジョニングの設定タスク フロー \(3 ページ\)](#)

### セルフプロビジョニングの概要

セルフプロビジョニング機能は、管理者に連絡することなく自分の電話をプロビジョニングする機能をエンドユーザに提供することにより、ネットワークの電話機をプロビジョニングするのに役立ちます。システムでセルフプロビジョニングが設定されており、個別のエンドユーザでセルフプロビジョニングが有効化されている場合、そのエンドユーザは電話をネットワークに接続して所定のいくつかのプロンプトに従うことで、新しい電話機をプロビジョニングできます。Cisco Unified Communications Managerは、事前設定されたテンプレートを適用することによって、電話と電話回線を設定します。

セルフプロビジョニングは、管理者がエンドユーザの代わりに電話機をプロビジョニングする際に使用するか、またはエンドユーザがセルフプロビジョニングを使用して自分の電話機をプロビジョニングするために使用することができます。

セルフプロビジョニングは、クラスタのセキュリティ設定が非セキュアモードまたは混在モードであるかどうかにかかわらずサポートされます。

#### セキュリティモード

次の2つのモードのいずれかで、セルフプロビジョニングを設定できます。

- **セキュアモード:**セキュアモードでは、セルフプロビジョニングにアクセスするためにはユーザまたは管理者が認証されている必要があります。エンドユーザは、そのパスワードまたは暗証番号に対して認証を受けることができます。管理者は、事前設定された認証コードを入力できます。
- **非セキュアモード:**非セキュアモードでは、ユーザまたは管理者は、ユーザーIDまたはセルフプロビジョニングIDを入力して、電話機をユーザアカウントに関連付けることができます。セキュリティで保護されていないモードは、日々の使用には推奨されていません。

### ユニバーサル回線とデバイステンプレートによる設定

セルフプロビジョニングは、エンドユーザに対して、プロビジョニング済みの電話機と電話回線を設定するために、ユニバーサル回線テンプレートとユニバーサルデバイステンプレートの設定を使用します。ユーザが自分の電話機をプロビジョニングすると、システムはそのユーザのユーザプロファイルを参照し、対応するユニバーサルラインテンプレートを、プロビジョニングされた電話回線に、ユニバーサルデバイステンプレートを、プロビジョニングされた電話機に適用します。

### プロビジョニングされた電話

この機能を設定したら、次の手順を実行して電話をプロビジョニングできます。

- 電話機をネットワークに接続します。
- セルフプロビジョニングの IVR 拡張機能をダイヤルします。
- プロンプトに従って、電話機を設定し、電話機をエンドユーザに関連付けます。セルフプロビジョニングの設定方法に応じて、エンドユーザは、ユーザーパスワード、PIN、または管理者の認証コードを入力することができます。



**ヒント** エンドユーザに代わって多数の電話をプロビジョニングしている場合、セルフプロビジョニング IVR 拡張に転送するユニバーサル デバイス テンプレートに短縮ダイヤルを設定します。

### アナログ FXS ポートのセルフプロビジョニング

ユーザがセルフプロビジョニング IVR を呼び出して、関連付けられた DN をそのアナログポートに割り当てることができるように、アナログ FXS ポートでセルフプロビジョニングを有効にすることができます。さらに、プロビジョニングされた電話機では、ユーザはアナログ音声ゲートウェイポートに関連付けられている DN の割り当てを解除し、別のユーザに割り当てることができます。

#### 手順

1. プラグインは、ゲートウェイの FXS 音声ポートのアナログ電話機です。ポートは自動登録または事前設定されている(手動で)ため、電話機は自動登録プールまたは割り当てられた DN から自動的に DN を取得します。
2. 自動登録されたアナログデバイスからのセルフプロビジョニング IVR を呼び出します。
3. セルフサービス ID と PIN を入力します。



**(注)** 確認時に、アナログデバイスはエンドユーザのプライマリ内線番号を使用してプロビジョニングされます。自動登録 DN がプールに解放されます。

## セルフプロビジョニングの前提条件

エンドユーザがセルフプロビジョニングを使用できるようにするには、次の項目を使用してエンドユーザを設定する必要があります。

- エンドユーザには、プライマリ内線番号が必要です。
- エンドユーザは、ユニバーサルラインテンプレートのユニバーサルデバイステンプレートを含む、ユーザプロファイルまたは機能グループテンプレートに関連付けられている必要があります。ユーザプロファイルは、セルフプロビジョニング用に有効にする必要があります。

## セルフプロビジョニングの設定タスク フロー

### 手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	セルフプロビジョニングのサービスの有効化 (4 ページ)	Cisco Unified 有用性で、セルフプロビジョニングの IVR および CTI Manager サービスをアクティブにします。
ステップ 2	セルフプロビジョニングの自動登録の有効化 (4 ページ)	セルフプロビジョニング用の自動登録パラメータを有効にします
ステップ 3	CTI ルート ポイントの設定 (5 ページ)	セルフプロビジョニングの IVR サービスを処理するために、CTI ルートポイントを設定します。
ステップ 4	CTI ルートポイントのディレクトリ番号を追加する (5 ページ)	ユーザが自動プロビジョニング IVR にアクセスするためにダイヤルインする内線番号を設定し、その内線番号を CTI ルートポイントに関連付けます。
ステップ 5	セルフプロビジョニングのアプリケーションユーザの設定 (6 ページ)	セルフプロビジョニング IVR 向けのアプリケーションユーザの設定 CTI ルートポイントをアプリケーションユーザに関連付けます。
ステップ 6	セルフプロビジョニングのシステムの設定 (7 ページ)	アプリケーションユーザと CTI ルートポイントをセルフプロビジョニングの IVR に関連付けるなど、システムのセルフプロビジョニング設定を構成します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ7	ユーザ プロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化 (8 ページ)	ユーザが割り当てられているユーザプロファイルで電話機をセルフプロビジョニングできるようにします。

## セルフプロビジョニングのサービスの有効化

セルフプロビジョニング機能をサポートするサービスをアクティブにするには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニング用 IVR サービスと Cisco CTI Manager サービスの両方が実行されていることを確認します。

### 手順

- 
- ステップ1 Cisco Unified Serviceability から、[ツール (Tools)] > [サービスの有効化 (Service Activation)] を選択します。
  - ステップ2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストからパブリッシャ ノードを選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
  - ステップ3 [CM サービス] で、**Cisco CTI Manager** を確認します。
  - ステップ4 **CTI サービス** で、**セルフプロビジョニングの IVR** を確認します。
  - ステップ5 [保存 (Save)] をクリックします。
- 

## セルフプロビジョニングの自動登録の有効化

セルフプロビジョニングにこの手順を使用するためには、パブリッシャで自動登録パラメータを設定する必要があります。

### 手順

- 
- ステップ1 Cisco Unified CM Administration で、[システム (System)] > [Cisco Unified CM (Cisco Unified CM)] を選択します。
  - ステップ2 パブリッシャノードをクリックします。
  - ステップ3 プロビジョニングされた電話機に適用するユニバーサルデバイステンプレートを選択します。
  - ステップ4 プロビジョニングされた電話機の電話回線に適用するユニバーサル回線テンプレートを選択します。
  - ステップ5 開始ディレクトリ番号と終了ディレクトリ番号フィールドを使用して、プロビジョニングされた電話機に適用する一連のディレクトリ番号を入力します。
  - ステップ6 [このCisco Unified CMでは自動登録は無効にする (Auto-registration Disabled on this Cisco Unified Communications Manager)] チェックボックスをオフにします。

**ステップ7** SIP登録に使用するポートを確認します。ほとんどの場合、ポートをデフォルト設定から変更する必要はありません。

**ステップ8** [保存 (Save) ]をクリックします。

## CTI ルート ポイントの設定

セルフプロビジョニング IVR 用の CTI ルート ポイントを設定するには、この手順を使用します。

### 手順

**ステップ1** Cisco Unified CM Administration から、[デバイス (Device) ]>[CTIルートポイント (CTI Route Point) ]を選択します。

**ステップ2** 次のいずれかの手順を実行します。

a) [検索 (Find) ]をクリックし、既存の CTI ルート ポイントを選択します。

b) [新規追加 (Add New) ]をクリックして、新しい CTI ルート ポイントを作成します。

**ステップ3** [デバイス名 (Device Name) ]フィールドに、ルート ポイントを識別する一意の名前を入力します。

**ステップ4** [デバイスプール (Device Pool) ]ドロップダウンリストで、このデバイスのプロパティを指定するデバイスプールを選択します。

**ステップ5** [ロケーション (Location) ]ドロップダウンリストから、この CTI ルート ポイントの適切なロケーションを選択します。

**ステップ6** [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point) ]ドロップダウンリストから、Unified Communications Manager がこのメディアエンドポイントを使用してトラステッドリレーポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。デフォルト設定では、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の設定が使用されます。

**ステップ7** [CTIルートポイントの設定 (CTI Route Point Configuration) ]ウィンドウで、残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

**ステップ8** [保存 (Save) ]をクリックします。

## CTI ルートポイントのディレクトリ番号を追加する

セルフプロビジョニング用の IVR にアクセスするためにユーザがダイヤルする内線番号を設定するには、この手順を使用します。この内線を、セルフプロビジョニングに使用する CTI ルートポイントに関連付ける必要があります。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM 管理 (Cisco Unified CM Administration) から[デバイス (Device)] > [CTI ルートポイント (CTI Route Point)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、セルフプロビジョニング用に設定した CTI ルートポイントを選択します。
- ステップ 3** [割り当て (Association)] で、[回線 [1] - 新しい DN の追加 (Line [2] – Add a new DN)] をクリックします。  
[電話番号の設定(Directory Number Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [ディレクトリ番号] フィールドで、セルフプロビジョニングの IVR サービスにアクセスするためにユーザにダイヤルする内線番号を入力します。
- ステップ 5** [保存] をクリックします。
- ステップ 6** [ディレクトリ番号設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウの残りのフィールドに入力します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
- 

## セルフプロビジョニングのアプリケーションユーザの設定

セルフプロビジョニング IVR 用にアプリケーションユーザを設定し、アプリケーションユーザに作成した CTI ルーティングポイントに関連付ける必要があります。

## 手順

- 
- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ (User)] > [アプリケーションユーザ (Application User)] を選択します。
- ステップ 2** 次のいずれかの手順を実行します。
- 既存のアプリケーションユーザを選択するには、[検索 (Find)] をクリックして、アプリケーションユーザを選択します。
  - 新しいアプリケーションユーザを作成するには、[新規追加] をクリックします。
- ステップ 3** [ユーザ ID (User ID)] テキストボックスに、アプリケーションユーザの一意の名前を入力します。
- ステップ 4** アプリケーションユーザの [BLF プレゼンスグループ (BLF Presence Group)] を選択します。
- ステップ 5** アプリケーションユーザに作成した CTI ルーティングポイントに関連付けるには、次の手順を実行します。
- 作成した CTI ルーティングポイントが、[使用可能なデバイス (Available Devices)] リストボックスに表示されない場合は、[別のルートポイントを検索 (Find More Route Points)] をクリックします。  
作成した CTI ルーティングポイントが、使用可能なデバイスとして表示されます。

- b) [使用可能なデバイス (Available Devices)] リストで、セルフプロビジョニング用に作成した CTI ルート ポイントを選択し、下向き矢印をクリックします。  
CTI ルート ポイントが [制御するデバイス (Controlled Devices)] リストに表示されます。

**ステップ 6** [アプリケーションユーザの設定 (Application User Configuration)] ウィンドウの他のフィールドを設定します。フィールドとその設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

**ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。

## セルフプロビジョニングのシステムの設定

システムをセルフプロビジョニング用に設定するには、次の手順を使用します。セルフプロビジョニングは、ネットワーク内のユーザが管理者に連絡をとらずに IVR システムを介して自分のデスクフォンを追加できる機能を提供します。



- (注) セルフプロビジョニング機能を使用するには、エンドユーザのユーザプロファイルでも該当機能を有効にする必要があります。

### 手順

**ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [セルフプロビジョニング (Self-Provisioning)] を選択します。

**ステップ 2** セルフプロビジョニング IVR でエンドユーザを認証するかどうかを設定するには、次のオプション ボタンのいずれかをクリックします。

- [認証が必要 (Require Authentication)] : セルフプロビジョニング IVR を使用するには、エンドユーザが自分のパスワード、PIN、またはシステム認証コードを入力する必要があります。
- [認証は必要なし (No Authentication Required)] : エンドユーザは認証なしでセルフプロビジョニング IVR にアクセスできます。

**ステップ 3** セルフプロビジョニング IVR で認証を要求するように設定されている場合、次のオプション ボタンのいずれかをクリックして、IVR がエンドユーザを認証する方法を設定します。

- [エンドユーザのみを認証 (Allow authentication for end users only)] : エンドユーザは自分のパスワードまたは PIN を入力する必要があります。
- [ユーザ (Password/PIN の入力) および管理者 (認証コードの入力) を認証 (Allow authentication for users (via Password/PIN) and Administrators (via Authentication Code))] : エンドユーザは認証コードを入力する必要があります。このオプションを選択した場合、認証コードとして、0 から 20 桁までの整数を [認証コード (Authentication Code)] テキストボックスに入力します。

- ステップ 4** [IVR 設定 (IVR Settings)] のリストボックスから、矢印を使用して IVR プロンプトで使用する言語を選択します。使用可能な言語は、システムにインストールした言語パックによって異なります。追加の言語パックをダウンロードするには、[cisco.com](http://cisco.com) のダウンロードセクションを参照してください。
- ステップ 5** [CTI ルートポイント (CTI Route Points)] ドロップダウン リストから、セルフプロビジョニング IVR 用に設定した CTI ルートポイントを選択します。
- ステップ 6** [アプリケーションユーザ (Application User)] ドロップダウン リストから、セルフプロビジョニング用に設定したアプリケーションユーザを選択します。
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。

## ユーザ プロファイルでのセルフプロビジョニングの有効化

ユーザが電話をセルフプロビジョニングできるようにするには、その機能が割り当てられているユーザプロファイルで有効になっている必要があります。



- (注) ユーザが使用しているユーザプロファイルがわからない場合は、[エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウでユーザの設定を開き、[ユーザプロファイル (User Profile)] フィールドで正しいプロファイルを確認できます。

### 手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration から、[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [ユーザプロファイル (User Profile)] を選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、ユーザが割り当てられているユーザプロファイルを選択します。
- ステップ 3** そのユーザプロファイルにユニバーサル回線テンプレートとユニバーサルデバイステンプレートを割り当てます。
- ステップ 4** セルフプロビジョニング用のユーザの設定
- [エンドユーザに自分の電話のプロビジョニングを許可 (Allow End User to Provision their own phones)] チェックボックスをオンにします。
  - ユーザがプロビジョニングできる電話機の数制限を入力します。デフォルトは10です。
  - ユーザがセルフプロビジョニングを使用して以前に割り当てられた電話機を無効にしたい場合は、古いデバイスのエンドユーザに関連付けられているユーザプロファイルページで、別のエンドユーザに割り当てられている電話機の [別のエンドユーザーにすでに割り当てられている電話のプロビジョニングを許可する] 設定を確認します。以前に割り当てられた電話機をユーザが再割り当てできるのは、古いデバイスに関連付けられているユーザプロファイル内でこのチェックボックスをオンにした場合のみです。

ステップ5 [保存 (Save) ]をクリックします。

---



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。